

令和4年1月28日

広島大学教職員組合執行委員長

神 野 礼 斉 様

広島大学理事（財務・総務担当）

俵 幸 嗣

グループリーダー級職員資格試験、副グループリーダー級職員資格試験比較（案）への
組合意見について（回答）

2022（令和4）年1月25日付けで、意見のありました標記の件について、下記のとおり回答いたします。

記

【意見1】

推薦者は部長級となっていますが、これまでどおりGL級を残しておいたほうがよいのではないのでしょうか。

各部ごとの職員の人数は大きく異なっており、一人の部長が推薦できる者の人数が原則としてGL級を1名、GL級を2名のため、所属する部によって、推薦されやすさが大きく異なります。

また、部によっては部長と主査・主任には、ほぼ面識がないこともあり、現実的に部長が推薦するというのは難しいのではないのでしょうか。（実際には、室長などが推薦書を記載することになるのかもしれませんが、それであれば、これまでどおり「GL級」としておいたほうが良いでしょう）。

（回答）

試験に合格すると、グループリーダー等の昇任候補者名簿に掲載されますが、当然ながら昇任ポストがないと昇任することができません。

名簿には有効期限があり、推薦者が多いと、名簿に掲載されても有効期限切れになる者が多くなる可能性もあり、実際にそういった方々もいました。

部長級職員は、各部の将来構想等を考える立場にあることから、推薦者を部長級職員に限定し、そのような状況にならないようにしたいと考えたものです。

なお、部長級職員は、グループリーダー等と協議を行った上で、推薦してもらうこととします。

【意見2】

これまでの例外は必要があって専門的部門を別にされていたことと思いますが、これを廃することで不具合が起きないか懸念します。

(回答)

これまで例外とされていた図書館部、施設部においては、これまでも人事部のもとで最終的に面接を行い決定しており、今回の見直しにあたっては、情報を共有していますので、不具合は生じないと考えております。

【意見3】

推薦者も部長級、試験官も部長級ということですが、当然それぞれ違う個人があたることと推測しますが、万が一、推薦と面接試験官が同じ部長級の人物が兼ねる場合は当然出来レースであると懸念されますので、念のため指摘しておきます。ともあれ、透明性、公平性の確保の観点から複数名で試験官をされることを求めます。

(回答)

面接試験に関しましては、すべての受験者を同じ目線（基準）で評価するために、すべて同じ面接官で実施いたします。

なお、面接に際しては、ご指摘いただいた、透明性、公平性の確保に加え、多角的な評価を行うことができるよう、これまでと同じように複数名の面接官で実施することとしています。